

研究構想図

【教育目標】

・じょうぶな子ども ○助け合う子ども ○考える子ども ・やりぬく子ども

【児童の実態】

- ① 授業において、英語による活動を楽しんでいる。
- ② 児童は学年が上がるにつれて、以前より英語の語彙や知識が増えていると感じている。
- ③ 英語を学習する必然性を感じている。
- ④ 学習したことを生かし、日常生活で使ってみようと思う児童が少ない。

【教員の課題】

- ① 見通しをもって計画的に指導するための指導計画の作成と実践。
- ② 児童がすすんで学習に取り組むための場の設定。
- ③ 他教科と関連した授業の試行。
- ④ できるだけ簡単に、短い言葉で要点を伝えるための英語力の向上。

【研究主題】

児童が、すすんで伝え合う外国語活動・外国語 ～対話的・実践的な学習を通して～

【めざす児童像】

低学年：基本的な表現に親しみ、友達とのコミュニケーションを楽しもうとする児童

中学年：基本的な表現に慣れ親しみ、相手を意識しながらコミュニケーションを図ろうとする児童

高学年：相手を意識しながら主体的に外国語を使って、コミュニケーションを図ろうとする児童

研究の視点

【児童が主体的に取り組む学習活動】

「聞くこと・読むこと・話すこと・書くこと」の活動を通じたコミュニケーションの充実」と「場の設定」

- ・児童が、単元または1単位時間の学習の見通しやめあてをもって学習する。(淀四スタンダードの構築)
- ・児童が設定された活動のもと、すすんで英語を使って交流する。→対話的な学習
- ・児童が、学習したことを日常生活で生かそうとする。(留学生との交流・校外学習・ゲストティーチャー等)→実践的な学習
- ・高学年における短時間学習の計画・実施・検証

※プロジェクトチーム A

【効果的な時間設定や教材の検証】

- ・外部人材や地域素材を活用した年間計画の作成
- ・単元の目標に合った歌やチャント、手遊び、絵本等の精選と活用

※プロジェクトチーム B あ)

【教員の英語力

・指導力の向上]

- ・児童・教員アンケートによる実態調査・分析
- ・ワークショップの設定・実施
- ・教材や実践の共有(導入の工夫・Warm-upやMainの活動の共有・評価)
- (評価のためのALTとHRTの役割分担、振り返り、ワークシート等)

※プロジェクトチーム B い)

【教育環境の充実]

- ・児童が、英語に親しむための校内掲示物の作成と活用
- ・教材や教具の収集や作成(単元毎の教材・教具を共有)

※プロジェクトチーム B う)

【プロジェクトチームの編成】

チーム A 低学年・中学年・高学年のブロックによる、1単位時間の授業と指導計画の充実

チーム B あ) カリキュラム・マネジメント い) 教員の英語力・指導力の向上 う) 教育環境の整備